



阿部先生、深澤さん、武田さん、田畑さん(1期)、名連さん(2期)、岩崎さん(3期)



井上さん、竹本さん(4期)、榎本さん(5期)



宇都宮さん(7期)、川島さん(8期)



本間さん、能崎さん(6期)、高橋さん、征矢野さん(9期)、嘉村さん(10期)



本間さん、能崎さん(6期)、高橋さん、征矢野さん(9期)、嘉村さん(10期)



本間さん、能崎さん(6期)、高橋さん、征矢野さん(9期)、嘉村さん(10期)



本間さん、能崎さん(6期)、高橋さん、征矢野さん(9期)、嘉村さん(10期)

藤島で市長と語る会 下水道公共マス負担の質問など



藤島町内会長連絡会の主催で「市長と語る会」が14日、藤島地区地域活動センターで開かれ、住民77人が参加しました。

①優良空き家の利活用について、②京田川

会場からの質疑では、「新たに土地を購入し下水道接続を申請したら、公共汚水マスは自己負担といわれた。HPでは市の管轄だ。負担金の徴収もあり、若者の定任に大きな困難だ」などが出されました。

及藤島川の河川管理について、③「高齢者が安心して生活できるまち鶴岡」を目指して、④行財政改革の取り組みと進捗状況についての4つのテーマで懇談しました。

東洋大学社会学部 『庄内藤島調査』10周年

東洋大学社会学部『庄内藤島調査』10周年記念講演会が12日、藤島地区地域活動センターで開かれ、大学関係者40人、地元住民50人が出席しました。

この間、学生を指導された阿部英之助・名古屋大学大学院教育発達科学研究科特任講師

が『藤島・庄内に魅了された若者たち』地域交流10年から』と題して講演しました。

調査のきっかけは学生時代の庄内農高の調査で、庄農の佐藤安太郎先生や藤島町役場のエコタウン課職員との出会いを語りました。

講演後、元エコタウン



懇親会では鏡割りでスタート



私の昭和 49

鈴木重雄(89歳・八色木)

農機具貧乏

農作業に耕耘機やトラクターが導入されたのは昭和30年以降である。今のように機械化される前の稲刈り時期は早かった。余目祭り(9月15日)が終わると稲刈りが始まる。苗代はぬかるんで作業もしにくく、体力を消耗するので早く終えたい。稲刈りは田植え同様一年中で一番忙しい作業なので、小学校も高学年になると農繁期休みがあつて手伝わされた。稲刈りも一株一株稲刈り鎌で手刈りの時代から、バインダーという機械が導入され、機械で刈ったのは結束するが、その後は杭にかけ、乾燥後ハーベスターで脱穀し、藁は家畜の飼料や藁作業の材料にするが、残りはブタズタにし田んぼに撒いてくる。

庄内地方は全国的にも機械化が早かったが、なかでも藤島町や三川町は早かったと思う。農業機械が普及したのも昭和39年、前回の東京オリンピックと復興景気で、早く農作業を終えて関東方面に出稼ぎに行くためであった。それは農家の経営維持費が高み生活費の不足の足しにするつもりでもあった。

ところが農機具代がまた多くなり、この代金を支払うため出稼ぎする悪循環になったのである。これは水稲単作地帯特有で農機具貧乏と言っていた。

田んぼのあちこちに藁屑の山が出来て、来春まで腐らないので火をつけて焼却する。赤

ン推進員の深澤昭吾氏や、1〜3期担当の武田壮一氏、4〜5期担当の井上克浩氏、6〜8期担当の本間伸一氏、9〜10期担当の高橋智也氏など市職員と、期

ごとの卒業生らがリレートークをおこない、最後に榎本市長から感謝状が贈呈されました。

1期生の菊池健司さんは「これまで40回は藤島に来ていて、3期生の持田綾乃さんは「埼玉県の持田綾乃さんは「埼玉県から移住し、農家レストラン菜あで働いている」、4期生の小野琢郎さんは「地元に戻ってJA庄内たがわで働いている」など話題が盛り上がりました。

虎刈街道

民報藤島10月30日号の「きびちよ」に、ルート345と因幡堰が並行する沿線の雑草が、我が物顔に繁茂する現況を批判するエッセーが記述されていた。100パーセント同感です。

私も時々自転車を漕いでJA車輛工場やスーパーに用があつて出かける。生い茂つた薄（ススキ）の穂先が時々私の顔をくすぐる。現在はこの度の石川さんの指摘もあつてか、雑草は80%程刈り取られたようだ。しかるにその跡地を見ると雑草に交じつて打ち捨てられたペットボトルやビニール袋があちこちに散見される。土地改良区も行政もいわば公共事業、もう少し世人の耳目を意識した行動を取ることが出来ないものでしょうか。

ひとつ提案ですが、毎年の草刈時期を前にして両者話し合いの場を設けることはできませんか。

刈取業者も一本に絞りに、作業終了後に面積に単価を掛けて、両者で按分すればよいのです。虎刈りの残る部分、今よりは少々減るとは思うんですがね。ついでも一つ。

冬期に役立つている防雪柵。鉄製のあの建造物に蔓草が我が物顔に上に伸びている。地上茂る低い雑草を刈払機を持ち出してきて草刈りすると違って、園芸用の裁鋏一丁



片手に持つて来て蔓草1本か2本の根元をちよんぎるだけで作業終了。あとは自然に枯れるのを待つのみです。厚手のゴム手袋は着用すること。この種の草には皮膚を痛める強い毒性がありますので。平野部の住民にその作業を委託してはいかがでしょうか。道路行政当局と住民との連帯感も生まれると思えますよ。

岸井成格氏「メディアの後押しを」と決意訴え、憲法公布70周年各地で

一あらためて憲法を学ぶ 青山崇

3日文化の日は、日本国憲法が平和と文化を重視していることから、1948年(昭和23)年に公布・施行された

祝日法で「文化の日」と定められた。公布から半年後の1947(昭和22)年5月3日に施行され、その日は憲法記

A collage of newspaper clippings from 'Shinbun Akahira' dated November 4, 2016. The main headline is '継ぐ受け意思の戦不 70年公布憲法' (Continuing the meaning of the non-war constitution 70 years after its promulgation). Other headlines include '愛知 世論でメディア守れ' (Aichi: Media must be defended by public opinion), '京都 民衆がりを条をえんる' (Kyoto: Citizens support the articles), and '福岡 立憲主義を守りぬく' (Fukuoka: Do not lose the constitutional principle). There are also photos of public events and rallies.

しんぶん赤旗2016年11月4日付け

念日となっている。

憲法改悪が進められている状況から、各地で憲法を守る集会が開かれた。「しんぶん赤旗」報道によると、名古屋市では、サンデーモーニング(「喝!」でも有名)コメンテーターの岸井成格氏が「安倍政権とメディアー私の決意」と題して講演。「政府は、あらゆるところで巧妙かつ執拗に、分断と揺さぶりを繰り返している。圧倒的な国民世論でメディアを後押しし

てほしい」と訴えた。

札幌市では「これまでもこれから私たちは戦わない」集会が開かれ、「日本を覆う安倍政治という暗雲を払おう」と訴えた。京都では出口弁護士が「憲法9条は民衆による戦争の直接体験から生まれた反戦、不戦の意識に支えられてきた。『押し付け』という主張があるが、占領軍が引き揚げた時に憲法返上の声も出なかつた」と語った。



自分の立場

初めて披露宴の司会をする時、俺はどっちの立場だもんだと聞いた。今はない茅ヶ崎海岸に俳優・上原謙所有のパシフィックなとかというホテルだ。司会者の立場は、嫁もらう側の人なんだと。

イコール国民が不幸だとなるが、こんな者を選んだ地元にも責任が。▲実際の処、彼だつてノリ弁をよく囃んだものでもなかるうテ。大臣と言えども良く読んで人に教えられるほどは解つちやいないぜ。事務方から教えられながらの答弁もアキアキしてきたんじゃないの。本当はこれじゃ困ると自分から言うべきなんだよ。国民にTPPをよーく解かつてもらうためにもサ。

▲思い出しついでに、礼服を頼んだときサイズはと電話で聞かれ、5尺3寸・15貫目・標準サイズだと言つたんだが、ピッタリだった。50年も昔の話ヨ。

▲威張りたい・目立ちたい委員会の理事だったヤツが、強行採決を言つて首になったのは当然なのだ。立法院にいて審議をつくすという自分の立場が判らないヤツだったんだから。

▲農水大臣は自分の立ち位置が判らないんじゃないですか。大臣は質問に良く答えて、質問者と国民によく解かつてもらう立場なんだぜ。冗談にも強行採決など口にできる立場じゃないんだよ。

▲交渉に当たった甘利を隠してノリ弁で審議したのは、何のためだ。誰のためだ。アメリカは諦めているというのに。(※ノリ弁・黒塗り文書 (石川))

▲しかも同じことで2度も怒られるとは、資質が問われるわナ。それだけの人を選んだ首相が悪いという事。

度も怒られるとは、資質が問われるわナ。それだけの人を選んだ首相が悪いという事。